

幼稚園と保育園の実習を体験して

ども達とどんな関わり方をすれば良いのだろうか」と期待と不安で複雑な思いでした。

そんな思いもうらはらに実習が始まると、全力で遊び、泣き笑い、力いっぱい自分を表現する子ども達の姿にふれることができ、私も全力で向かっていかなければ保育者として大切なことを学べないことに気がきました。

実際の現場では、気候や子ども達の体調など様々な面に配慮して活動が決められていたり、子どもがより満足できる活動になるよう工夫していることを知り、保育者が臨機応変に

対応している

製作活動の時には「どうやって描いたらいいか分からない」と戸惑っている子どもに対して、保育者が「どんなことを描きたいか」と思っているの?と子どもの気持ちや描けない理由に寄り添っていました。

が大切な援助であることを学びました。実習生が保育を進める部分実習や責任実習では、実際に自分で子ども達に言葉かけを行ったり、環境を整えたりしてみると、観察中心だったときは異なる子どもの表情が見えました。自分が考えた活動を楽しんでくれる子ども達の姿に嬉しさを感ずることもあれば、予想していなかった子ども達の反応に困惑したことも、環境構成の不十分さなど悔しかったことも沢山あり、反省点から自身の課題

を明確にできました。実習を終えて、保育者としての援助の仕方の難しさを感じる以上に、保育をやる楽しさや、子ども



と関わるこの楽しさを一番に感じることができました。先生方から沢山アドバイスをいただいたことを心に留め、改善していけるように今後も研鑽を続け、立派な保育者になれるように頑張りたいと思います。

社会保育学科3年

野呂こころ